

# 会務報告

## ● 大会委員会

◆ 2010年1月30日、日本語教育学会事務局会議室において、2009年度第6回大会委員会が開かれた。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

### 1. 2009年度秋季大会の反省

大会アンケートの結果を参考に、秋季大会についての反省を行った。開催校企画によるシンポジウムについては、大会委員会としても十分に内容を把握し、必要な協力を行う必要があることを確認した。

### 2. 2010年度春季大会の進捗状況

開催校の早稲田大学の準備状況について報告があり、使用教室や当日のタイムスケジュールについて確認した。また、日本語能力試験に関する説明会を第2日の昼休みに入れることを確認した。

### 3. 2010年春季大会発表者の選考

すべての種別で前回より応募が増えた。審査の結果、口頭発表36件、ポスター発表20件、パネルセッション7件、デモンストレーション9件の採用を決定した。審査後、不採用者に対するコメント執筆の分担、コメントとりまとめ担当者、発表会場の割り振り案作成の担当者などを決定した。

### 4. 2010年度秋季大会以降の企画・運営について

- (1)委員長および事務局より、2010年度秋季大会開催校（神戸大学）の視察報告があった。委員長から初日プログラムについての提案があり了承した。2010年度の秋季大会では、開催校からのシンポジウムの企画はなく、初日の午後は複数のパネルを並行して行う。パネルについては、従来型の公募のパネルのほかに、学会のワーキンググループによる「特別企画パネル」を新たに設けることを決定した。後者のパネルについては、一般の公募とは別枠で受け付ける。
- (2)2011年度春季大会の開催候補校について、委員長より報告があった。2011年秋季大会については、開催校と実際の会場（例えば、コンベンション・ビューロー）が異なってもよいこととし、今後そうした可能性も含め検討することを確認した。

### 5. その他

#### (1)応募時における会員要件の徹底について

2010年度秋季大会より、応募時点で会員になっていること（応募の際に会員番号を記載すること）を徹底することを決めた。なお、パネルについては、従来通り参加者の6割以上が会員であることを条件とする。

(2)大会2日目昼休みの説明会の申し込み方法について確認した。

次回の委員会は、4月17日（土）に東方学会会議室で行う予定である。

（二通 信子）

## ● 学会誌委員会

◆ 3月6日（土）2時～4時15分、早稲田大学で学会誌委員会を開いた。年度末の業務と重なる委員が多かったため、出席は委員11名と事務局1名であった。145号の進捗状況、146号と148号の特集の進捗状況、リニューアルWGの進捗状況、田尻委員の辞任について報告の後、以下を審議した。

1. コラム「海外の学会から」に報告を掲載する学会の選定
2. 146号投稿論文の採否（応募60本、採用0本、条件採用7本、再投稿22本、不採用31本）
3. 第5回林大記念論文賞の授賞論文選定
4. 150号記念特集WGの発足
5. 来年度以降の委員会運営について

2010年度の委員会は、7月3日（土）、11月6日（土）、3月5日（土）に行う。

（廣瀬 正宣）

## ● 研究集会委員会

### 1. 研究集会報告

#### 1. 平成21年度第10回研究集会（中国地区）

日時：2009年12月19日（土）10:40～17:30

会場：鳥取大学鳥取キャンパス共通教育棟

参加人数：40名（会員16名、一般24名）

内容：研究発表4件、活動報告4件、講演講師：土岐哲氏（京都外国語大学） 題目「日本語の音声、ネーティブ・スピーカーは、つねに「正しい」か？～音韻論的意識と音声表現の乖離、学習者の聞こえ等を巡って～」

講演では、前半に音声学習の諸側面とその変化、日本語教育における対応について、実演を交えたり参加者に問いかけたりしながらわかりやすく解説がなされた。後半は音声教材を録音している現場を撮ったDVDを見ながら、意図する音声を具現化するためのポイントを学んだ。研究発表はイデオムチャック表作成、作文フィードバック、学習者と実習生とのメール交換、アジア人財資金構想における日本語教育についてのものではあった。また活動報告は、山陰地方での地域日本語活動の報告が2件、大学でのディベート授業実践と、EPAによる看護師候補者の日本語学習がそれぞれ1件であった。いずれも、活発な質疑応答がなされ、研究会終了後も意見交換、情報交換が続けられた。

今回は研究発表も教育実践をベースにしたものが多く、実践と研究が不可分であることを改めて認識することとなった。

(報告者：御館久里恵)

2. 平成21年度第11回研究集会(関西地区)  
日時：2010年3月13日(土)13:00~17:30  
会場：甲南大学8号館, 821講義室・822講義室  
参加人数：122名(会員78名, 一般44名)  
内容：研究発表9件, 講演講師：小林ミナ氏(早稲田大学) 題目「日本語教育におけるコーパス・データの利用」

小林ミナ氏から、コーパス・データをもとに考えたとき日本語初級教科書の文法項目の中には不必要なものがあるのではないかと、という問題提起がなされ、コーパス利用による教育研究進展の可能性が示された。講演後の研究発表は2会場に分かれて行われ、文法に関するもの、教材開発に関するもの、発音指導に関するもののほか、さまざまな対象に向けた日本語学習支援のあり方を問題にするものが目立った。研究発表の場では参加者による熱心で活発な討議が行われた。

(報告者：中島孝幸)

## II. 会議記録

◆平成21年度第7回研究集会中央委員会(3月29日)

1. 2010年度実践研究フォーラムについて

(1)発表者の選考

審議の結果、ラウンドテーブル(RT)12件、ポスター11件が採択された。

(2)採択通知の確認

採択通知を確認し、不採用となった応募者に対してコメントを書く委員を決定した。

(3)今後のスケジュール

(4)パネルセッションの内容について

パネルセッション講演者は、日本語教育分野外より大谷尚氏(了解済み)に決定した。

(5)予稿集について

(6)会場について

すでにメーリングリスト、ホームページ等で報告済みであるが、2010年度実践研究フォーラム会場は桜美林大学に正式に決定したことを委員会で確認した。

2. 2010年度会議日程について

3. 全体委員会討議事項について

学会誌『日本語教育』研究集会発表要旨について、各地区研究集会の参加費等については、次回全体委員会での討議事項とする。

4. その他

各委員会の会議経費削減について交通費金額の変更および会議弁当実費負担の件を確認した。

※次回会議日程

全体委員会 2010年5月22日(土)

中央委員会 2010年6月3日(木)

(堀井 恵子)

## ● 教師研修委員会

I. 研修実施報告

1. 短期集中研修

「ケース(事例)で学ぶビジネス日本語教育一問題解決型討論活動のデザイナー」

講師：池田玲子(東京海洋大学), 近藤彩(政策研究大学院大学), 神吉宇一((財)海外技術者研修協会)

開催日：2010年1月9日(土)

場所：政策研究大学院大学

参加者：31名

2. 短期集中研修「教室活動のデザインIII」

【講座①】「形成的フィードバックー中級会話を例にー」講師：ボイクマン総子(筑波大学)

【講座②】「社会とのつながりを重視した初級の教材作成」講師：齋藤伸子(桜美林大学)

開催日：2010年2月13日(土)

場所：桜美林大学四谷キャンパス

参加者：講座①27名, 講座②25名

3. オンライン研修

「日本語教師のためのOn-Line IT講座基礎編」

開催日：2010年1月18日(月)~3月26日(金)

講師：福田真樹子(米国トリニティー大学)

監修：畑佐一味(米国パデュー大学)

参加者：8名

4. オンライン研修

「日本語教師のためのOn-Line IT講座活用編」

開催日：2010年2月1日(月)~3月26日(金)

講師：中澤一亮(台湾元智大学)

アシスタント：広谷真紀(米国ローズハルマン工科大学)

監修：畑佐一味(米国パデュー大学)

参加者：15名

5. 日本語アトリエNKG

「形成的フィードバックー「話す」授業での実践の共有ー」

開催日：2010年3月26日(金)

世話役：齋藤ひろみ, 八田直美, ボイクマン総子(教師研修委員)

参加者：11名

II. 2010年度の研修予定

1. 日本語教師が知っておきたい「介護の話」

開催日：5月15日(土)

場所：東京国際大学早稲田サテライト

2. 日本語教師のための統計学入門

開催日：7月4日(日)

場所：東京海洋大学

3. 夏季集中研修「学ぶこと」「教えること」を振り返るー多様化する社会の中でー

開催日：8月7日(土)・8日(日)2日間

場所：(財)海外技術者研修協会予定

4. 日本語教師が知っておきたい「日本在住外国人の社会的状況と法制度」(仮称)  
開催日: 9月11日(土) 予定 場所: 東京
5. 専門日本語教育ワークショップ「介護」(仮称)  
開催日: 11月13日(土) 予定 場所: 東京
6. カリキュラム評価(仮称)  
開催日: 2011年1月15日(土) 予定  
場所: 東京
7. 教室活動のデザインⅣ  
開催日: 2011年2月19日(土) 予定  
場所: 東京
8. 専門日本語教育ワークショップ「ビジネス」(仮称)  
開催日: 2011年3月5日(土) 予定  
場所: 政策研究大学院大学予定

◆「日本語教師研修コース」についての詳細は日本語教育学会Websiteの教師研修ページをご覧ください。詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載していきます。

<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

### III. 委員会での討議事項

1. 2009年度第6回教師研修委員会(1月30日)
  - (1)2010年度教師研修委員会のコンセプト  
2010年度は「他領域との協働」「社会とのつながり」「実践と研究の往還」の3点を柱とすることとした。
  - (2)2010年度研修企画および予定
  - (3)2010年度合宿研修企画
  - (4)看護・介護ワーキンググループに関する報告および提案意見
  - (5)秋季大会における理事会主催ワークショップに関する報告
  - (6)2009年度後半の研修報告
    - ・第4回日本語アトリエNKG(12月11日)
    - ・日本語教師のための統計学入門(12月13日)
    - ・統計に関する書籍について
    - ・ケースで学ぶビジネス日本語教育一問題解決型討論活動のデザイナー(1月9日)
  - (7)2009年度後半の研修について
    - ・教室活動のデザインⅢ(2月13日)
    - ・第5回日本語アトリエNKG(3月26日)
  - (8)2010年度の会議日程について  
2010年度会議日程を決定した。教師研修委員会は来年度より特別委員会から通常の学会常設委員会となるため会議謝金等を変更することが確認された。また、年間会議数を減らし、会議時間を変更し、昼食等を出さないこととした。
  - (9)その他
    - ・会員へのアンケートについて
    - ・研修評価について

2. 2009年度第7回教師研修委員会(3月6日)
  - (1)2009年度研修の報告と予定
    - ・教室活動のデザインⅢ(2月13日)
    - ・第5回日本語アトリエNKG(3月26日)
  - (2)2010年度前半の研修計画
    - ・介護・看護研修について
    - ・法律に関する研修について
    - ・統計研修について
    - ・合宿研修について
  - (3)秋季大会理事会主催ワークショップについて
  - (4)統計書籍に関する報告
  - (5)春季大会パネル発表に関する報告
  - (6)その他
    - ・教師研修委員会アンケートについて

※次回の教師研修委員会会議予定

2010年度第1回教師研修委員会

2010年5月8日(土) 9:30~12:30

(嶋田 和子)

### ● 試験分析委員会

第8回試験分析委員会 2010年1月21日(木)

1. 平成20年度日本語能力試験分析報告会(2009年9月実施)の資料について、委員長より説明がなされた。
2. 『平成20年度(2008年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の完成原稿の最終確認を行った。
3. 上記原稿の提出方法について確認を行った。
4. 2009年12月実施の聴解問題の一部について意見交換を行った。
5. 次回分析報告書の執筆担当者の確認を行った。

第9回試験分析委員会 2010年2月13日(土)

1. 『平成21年度日本語能力試験分析報告書』について、7月実施試験と12月実施試験の呼称、結果概要での取り上げ方について話し合われた。
2. 『平成21年度(2009年7月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(聴解類)について話し合われた。
3. 上記報告書の執筆スケジュールについて検討した。

第10回試験分析委員会 2010年3月11日(木)

1. 『平成21年度(2009年7月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(文法、文字、聴解問題1)について話し合われた。

(野口 裕之)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2010（平成22）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店（普）130-880757

○現金書留

○クレジット（海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください。）

銀行の支店の統合により、「みずほ銀行」への会費振込先が上記のとおり変更になりました。ご注意ください。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方を対象に、「年度会費の自動引落システム」の運用を開始いたしました。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）をご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係（kaiin@nkg.or.jp）までお問合せください。

<年会費>

○普通会員 10,000円（年額）

○賛助会員 1口50,000円以上（年額）

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552
E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp